

京都教区時報

京都教区広報委員会
 (編集長 村上透磨)
 京都教区本部事務局
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
 ご希望の方は点訳ネット「レジ
 ナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さ
 んまでお申込みください。
 TEL・FAX 079-431-8601

3頁 祝 卒寿 ライムンド 田中健一名誉司教

4頁 京都教区 高校生会 夏の体験学習「北海道で祈る」

高山右近と荒れ野

高山右近の列福式で盛り上がった年もあと二ヶ月で終わろうとしています。そこで、教区時報も「高山右近と荒れ野」、「高山右近とゲッセマネ」と題して、高山右近の霊性を考えてみたいと思います。それは、先月の「福音的価値観に基づいて生きることこそ、聖性への道のりなのです」との瀧野師の言葉を、黙想することにあるのでしよう。

「福音に生きる」とは、フランシスコ教皇も言われる通り、キリストの神秘体としての教会が、その時代、時代の「総合的環境に、福音の価値観に従って生きていくことだ」ということになりましょう。

今年、右近列福を機会に、日本の司教団と、そして大塚司教の教書(年頭書簡)が目指したものは、高山右近を通して、現在、特に日本の教会の(広い意味での)福音宣教を問い直し、新しい信仰の在り方を見出し、一歩踏み出そうとする旅を、始めようと促されたのだと思います。

ここでは「過去の人物、偉人、聖人」について語ることの難しさがあります。特に、高山右近についての資料が少ないという現実の問題も含めて、高山右近の全人物像を描くのは簡単なことではないのです。ですから右近の自叙伝ではなく、右近の信



大阪府豊能町高山にある「高山右近生誕之地」碑

仰の一断片を垣間見てみたいと思います。

そこで思い立ったのは「右近と荒れ野」というテーマです。つまり「荒れ野の試練」についての聖書を黙想し、キリストの信仰の本質に迫ることです。荒れ野の誘惑の記事は、マタイとルカにあります。マタイによってみましょう。(マタイを採用するわけは、どうも当時、マタイが福音書の中であったように思えるからです。)「荒れ野の誘惑についてのマタイの背景は、神の民イスラエルの原体験ともいえるべき「出エジプト」と「過越しと荒れ



野の旅」が背景にあるからです。

「荒野の誘惑」についての詳しい考察は抜きにして、ただここで心に留めたいのは、この出来事に神と人との最も基本的な、本質的な、そして総合的な関わりが描かれていると思われることです。「この荒野の試練」というエピソードの中に「神の民イスラエル」「イスラエルにあるイエス・キリスト」「新しい神の民、教会」が描かれています。そして、神と人間とのその関わりの中で、最も重視される根本的な問いと答えが、三つ述べられます。それは、キリストの言葉にあります。

①「人はパンのみで生きるのではなく、神の言葉によって生きる」(申8・3)
(これをパンの誘惑「楽な生活を選ぶ誘惑」という言い方をする人もあります)

②「主である神を試みてはならない」(申6・16)
(これを虚業の誘惑、聖人の誘惑、「神を思い通りに動かせるというおごり」とも言います)

③「ただ唯一の神のみを礼拝せよ」(申6・13)
(偶像崇拜の誘惑「エゴイズムへの誘惑」)
私は、この③が三つの中で最も中心的

なテーマ、即ち聖書を貫く根本的なテーマだと思えます。

荒野の試験は、人間の神との関わりの中での本質的な問いと答えを書いているといえます。(ここで「誘惑」ではなく「試練」むしろ「試験」という言葉を使います。)

ところでこの「神の試験(試練)」に関して留意すべき重要な点があり、それを知るには、その文脈を見る必要があります(マタイ3・15〜17)。

まず洗礼「その時、霊が降り(聖霊が降り)天から声がした(御父が宣言する)。これは私の愛する子、私の心に適うものと宣言される。御子にとって神はアッパである(御子は誰であるかと)。尚、洗礼を受ける時、私たちもこのアッパの子と呼ばれる(ローマ8・14、ガラテヤ4・6、マルコ14・36)。

その「アッパ」は、その御子を「霊に」よって荒野野に送った(マタイ4・1)。子は断食と祈禱に40日間明け暮れた(マタイ4・1〜11、ルカ4・1〜13)。

人間的敬心の極みを尽くした。そして飢えられた。

そこへ試みる者(悪魔)が近づいた。そして試みが始まった、そして続いた。試みが終わると、試みる者は離れ、天使が仕えた。

ルカは、試みを終え定められた時(ヨハネ13・1)まで別れた(ルカ4・13)と書く。

ここで注意すべきことは「試み」は「悪い人」ではなく、むしろ神に従おうとする人、神に近い人、親しい人、愛された人、義しい人に及ぶのだということなのです。そして彼は最終的な選択を迫られます。選ぶべきもの、それは勿論「神」、神だけなのです。

右近は、神を選びました。刀と富と能力をもって世の権力を得ることではなく、神への信仰と永遠の命を。

剣と武力と世とその栄華よりも、愛と貧しさと謙虚と勇氣をもって、そして敬虔さをもって真の神に信頼し、喜ばれることを。

世の権力者(特に秀吉、家康)を拜むのではなく、唯一の神を愛し拜み仕えることを選んだのです。

結局、こうして「世に勝ったのです」(ヨハネ16・33)。荒野野を脱出することになるのです。約束の地、永遠の国に帰ることになるのです。

そうしてこれが真のキリスト者の姿。しかも、彼はこれが、キリストの武士の姿だと思ったのです。

(村上透磨)

祝 卒寿 ライムンド 田中健一名誉司教

ライムンド 田中健一名誉司教様

卒寿おめでとうございます。

9月4日、兵庫県姫路市のカトリック仁豊野ヴィラにて、ライムンド田中健一名誉司教の卒寿記念ミサが、パウロ大塚喜直司教の司式により捧げられました。田中司教は1927年に愛媛県宇和島市に生まれ、1951年、高松教区の司祭に叙階、1976年にはパウロ6世教皇により京都教区司教に任命され、1997年まで京都教区長として活躍されました。この夏より仁豊野ヴィラに入居され、8月31日に90歳(卒寿)の誕生日を迎えられました。今は、ロザリオの祈りを捧げることが、大切な日課とされておられます。

仁豊野ヴィラには東門陽二郎師も入居しておられ、元気に共にミサを捧げてくださいました。



京都教区 高校生会 夏の体験学習

北海道で祈る

～函館での黙想会～

2017年8月21日～24日

「祈り」

奈良教会 1年 榎並 加称

私は、高校生会の夏合宿にはじめて参加しました。今年のテーマは「祈り」です。北海道のトラピストに行くよと聞かされても、あまり男子修道会というのが想像できませんでした。祈りと言われても、正直、いままで祈り方が分からなかったし、黙想と言われても、何をすればいいかも分かりませんでした。神父様が祈りの時にこういう事をするとか教えてくれて、少し黙って心を落ち着けるようになりました。でもまだ集中力がたりないと感じました。祈りって奥がふかいとも感じました。

神様に語りかけても、神様からの返事が聞こえないから、いややなと思いました。トラピストとトラピスチヌ修道院では7回の祈りと1回のミサを毎日していると聞いた時には、私もそのような祈り中心の生活を一度してみたいと思いました。祈り続ける事で自分の弱さに気付き、祈りが嫌になるという話を聞いた時は、じゃあ祈る意味って何？ とすごく疑問に思いました。

祈る事とは、神様とコミュニケーションをとることだと、神父様は私

ちに教えてくれましたが、私には神様からの声も聞こえてこないし、コミュニケーションって何？ と思ってしまいました。神様から私に何かをおくってくださっている事にも気がきません。でも、私は今のうちに祈りとは何か、考えているこの時がとも幸せです。毎週、教会に行っても本当の祈りができているか、分からないし、一生祈りとは何か考えても答えは出ないかもしれないけど、私は少しでも神様に近づいていきたいと思いました。今は、祈りとは何か分からなくても、生きていく間に分からなくても、神様の所に帰ってからもいいから、いつか本当の祈りとは何かを知りたいと思いました。



「祈りと福音に近づけた夏」

桃山教会 2年 土持こなみ

今回の夏合宿は、前回の春合宿の講話で小立花神父様が言っていたことを大いに実感し実践できた合宿となりました。合宿始めの時、全く春合宿の内容を覚えていなかった私でしたが、合宿が進むにつれ神父様のお話やお祈りを通して段々と「ああ、これがこのことか」とわかってきました。

まず一つ、神との交わりを持つにはむしろ「何もしない」ということが必要と聞いたとき、正直なんて他人任せなんだと思いました。しかし、「神が自ら私達を聖霊によって導いて下さるのだから、自力で交わりを持つとうとす

るのは、神の邪魔になる」という解説は、私にキリスト教の神の愛の深さを、気づかせてくれました。自分を無にするのは、神の愛を全身に受けとめるための、受身をとっている状態なんだと理解することで、キリスト教の難しいイメージが少し解きました。

二つめに小立花神父様の「福音を読んで、その様子を妄想する」という聖書の読み方が、かなりわかりやすく効果的であることに気づきました。福音は文体も独特で、かたく読みにくい上わかりづらいので、何とも入ってこないものでしたが、文の一つ一つをとらえて妄想をひろげていくことで、様子が映像で入ってきて、すらすらと福音が理解できました。また、妄想をひろ

げていくうちに、台詞中の微妙な表現にも気づけるようになり、福音を普通の文学作品のように読めるようになりました。そうなるに福音も人間の弱さや神の偉大さ、イエスの人間らしさを顕著に表した短編集のように思えてきて、案外宗教ってというのは、人の生活に近いものなのかなと感じました。他にも言い出すと色々なことがありますが、話が収まらなくなりそうなので、この二つだけにしておこうと思います。ここを書き切れないほどたくさんの方があって、充実した合宿でした。



天使の聖母トラピスチヌ修道院



灯台の聖母トラピスト大修道院



社会と共に歩む教会 2017

こんなことやってます

京都教区では、5つの福音宣教優先課題に取り組んでいます。その中で、信徒が取り組んでいる「社会とともに歩む教会」の実例を、広報委員会でお聞きすることになりました。

活動名(病床訪問・釜ヶ崎への奉仕など)形態(教会・個人・グループなど)、代表者の氏名、連絡先(住所・電話番号・Eメール・所属教会)を明記して、京都教区広報委員会宛てにお送りください。

締切 2018年1月10日(水)

〒604-8006

京都市中京区河原町通三条上る

カトリック京都司教区

広報委員会

FAX 075-211-4345

Eメール honbu@kyoto.catholic.jp

実例リストとして、京都教区時報2003年6月号(307号)、8月号(309号)、10月号(311号)に掲載しています。京都教区ホームページの教区時報バックナンバーからでも、ご覧頂けます。

2004年教区時報で紹介した

活動実例

- ・世界平和を祈る市民の集い
- ・割り箸回収
- ・奈良少年刑務所クリスマス会
- ・マジック公演・聖歌隊訪問
- ・薬物依存症からの回復を目指す人たちと共に
- ・何かお手伝いが出来れば
- ・社会と共に歩む活動の取り組み
- ・心の病の電話相談
- ・障害を持った仲間とともに
- ・ブラジル・フマニタス慈善協会への古着発送活動について
- ・盲導犬協会への募金
- ・障害者の黙想会のお世話

京都教区の福音宣教優先課題

2001年1月5日発表
京都教区は 5つの優先課題に取り組んでいます

1. 共同宣教司牧を推進して、福音宣教する教会共同体になっていきます
2. 滞日外国人の人々と連帯し、多国籍の教会共同体を作ります
3. 青少年の育成に力を入れます
4. 信徒の生涯養成と、信徒の奉仕職を充実させていきます
5. 「社会と共に歩む教会」として、社会の弱者と連帯し、社会の正義と平和の問題に取り組めます

11月のお知らせ

教 区

聖書委員会 / Tel.075(211)3484 ㊦㊧

聖書講座「聖書で祈る」

日 時：8日㊦ 19:00 / 9日㊦ 10:30

テーマ：下りていく生き方

講 師：北村 善朗師

日 時：29日㊦ 19:00 / 30日㊦ 10:30

テーマ：今、キリストを証しする

講 師：鈴木 信一師(パウロ会)

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

よく分かる聖書の学び

日 時：22日㊦ 10:30

講 師：北村 善朗師 / 参加費：300円

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

修 道 会

男子カルメル修道会(宇治修道院)

Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457

青年の集い

(中川師、Br. 原、Sr. ロサ、Sr. マイラ)

日 時：3日㊦ 10:00~16:30

参加費：500円

対 象：高校生以上35歳までの男女

English Retreat (Sr. Rosa)

日 時：18日㊦ 10:00~16:00

(18days Sat. 10am to 4pm)

テーマ：A pilgrimage to Jerusalem with the Magi.

参加費：要問合せ

生活の中での霊的同伴(九里 彰師)

日 時：24日㊦ 20:00~25日㊦ 15:00

参加費：6,500円

聖書深読黙想会(中川 博道師)

日 時：25日㊦ 10:00~16:00

参加費：2,500円

水曜黙想(中川 博道師)

日 時：29日㊦ 10:00~16:00

テーマ：『ラウダート・シ』を生きる

参加費：3,000円

ノートルダム教育修道女会

女子青年黙想会 <希望の道>

日 時：11日㊦ 15:00~12日㊦ 15:30

テーマ：神は卑しいはしためを顧みられた

場 所：ノートルダム唐崎修道院

指 導：山内 十束師(御受難会)

対 象：独身女子青年信徒 / 費用：2,500円

締切り：5日㊦(事前申込要)Sr. 桂川

申込み：Tel.077(579)2884 Fax.(579)3804

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：12日㊦ 14:00 / 25日㊦ 18:00 ミサ奉仕後

カトリック会館 6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：9日㊦ 10:00 / 30日㊦ 10:00

カトリック会館 6階

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：9日㊦ 13:00 カトリック会館 6階

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイ A

毎週土曜日 朝 7:45

シリーズ「私のキリスト道巡礼記」

出演は橋本 勲師(長崎教区)

ラジオ(KBS京都) ㊦~㊦ 朝 5:55

㊦ 朝 5:15

11月のテーマ「とりなし」

京都南部ウオーカソン

日 時：3日㊦ 10:00~14:30

受 付：8:45~9:30 河原町教会

コース：河原町教会から鴨川沿い往復

寄付先：東日本大震災被災地、ネパールバ

ンディプール村教育活動支援、ブ

ルキナファソ洪水災害支援

教区広報委員会からのお知らせ

※ お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区広報委員会宛にFax.075 (211) 4345 かhonbu@kyoto.catholic.jp に発信者のお名前を明記してお寄せください。

※ 2018年1月号の原稿締切り日は11月22日㊦です。

大塚司教の

11月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 1日(水) 14:00 中央協 予算検討会
 2日(木) 10:00 中央協 常任司教委員会
 3日(金) 日本カトリック神学院
 福岡キャンパス 召命の集い
 4日(土) 15:00 ノートルダム教育修道女会
 誓願金祝ミサ(岩倉修道院)
 5日(日) 14:00 衣笠墓苑 物故者追悼ミサ
 (衣笠教会)
 6日(月) 14:00 司教顧問会・モデラトール
 合同会議
 17:00 教区司祭追悼ミサ
 (河原町教会)
 7日(火) 10:30 広報委員会 会議
 14:00 福音宣教企画室 会議
 8日(水) 11:00 中央協 列聖推進委員会
 9日(木) 10:00 アヴェマリア幼稚園
 創立50周年記念式典
 11日(土) 13:00 社会司教委員会
 脱原発シンポジウム(大阪梅田教会)
 19:00 京都教区YES2017
 (西院教会)

- 12日(日) 14:00 津教会 英語ミサ
 13日(月)-16日(木) 第20回日韓司教交流会
 (鹿児島)
 18日(土) 14:00 教区一粒会の日
 (西陣教会)
 19日(日) 11:30 上野教会 ポルトガル語ミサ
 20日(月) 14:00 日本カトリック神学院
 教員会議(東京キャンパス)
 21日(火) 16:00 青少年委員会
 22日(水)-23日(木) 宗教改革500年記念行事
 (長崎)
 25日(土) 14:00 京都教区正義と平和協議会
 主催「脱原発シンポジウム」(河原町教会)
 27日(月) 16:00 「カトリック大阪教会管区
 部落差別人権活動センター」
 教区担当者の集まり
 28日(火) 14:00 京都済州姉妹教区交流委員会
 29日(水) 10:30 11月司祭・司牧者 集会
 (河原町教会)
 15:30 司祭評議会

神学生・司祭養成協力会(一粒会)

教区一粒会の日 開催と参加のお願い

この度、京都教区では「教区一粒会の日」を11月18日に開催し、神学生・司祭養成協力会(一粒会)のために、大塚司教司式のミサが捧げられます。

司祭召命のために、ともに祈りを捧げて頂きたい、ご案内いたします。

教区一粒会の日

- 日 時：2017年11月18日(土)
 シンポジウム「司祭職の喜び」 13:30～14:30
 召命祈願ミサ(司教ミサ) 14:45～15:45
 茶話会 16:00～16:30
 場 所：カトリック西陣教会